



# 浜家連 ニュース7月号

第251号

2021年7月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## 会員増のために

理事長 宮川 玲子

浜家連総会は6月号でお知らせしたように、今年も昨年同様コロナ禍のため大人数が集まる総会は開かず、書面表決にしました。その後昨年と同じく、10人程で小さな総会を行いました。これはNPO法人の場合書面表決だと全員の賛成が必要で、1人でも反対があると総会が無効になるので、それを防ぐために行うものです。反対はありませんでしたが、賛成票の確認を行い、通常のように議長を選出し、議案書に従い進行する総会を執り行いました。

さて総会の資料を見ると、会員数の推移がグラフになっていますが、毎年会員が減っているのが目につきます。各区とも会員の高齢化が言われ、身体が動けなくなって施設に入ったり、例会に来られなくなったりしてその考えられる理由として

- ① 区役所のワーカーさんからの紹介があまり無くなった。
- ② 最近はテレビや書籍などメンタルヘルスへの情報が多くなった。またパソコンやスマホでなんでも検索できるようになった。
- ③ 働いている人が多くなり、忙しくて集まれる時間が取れない人が多い。
- ④ デイケアや作業所、就労場所やグループホームが増え、本人がそういうところに行っしかし、同じ悩みを持っている人でないと苦労が分からないことがあります。仲間がいるということはなんでも話せる安心感があります。家族への一番の支援機関は家族会ですので、時代の変化  
会員増加のためには

- ① 家族教室で会員をつのる。
  - ② 就労継続や地域活動センターに行っている
- など考えられると思いますが、それぞれの会で話し合っ

辞めていく人が多くなっています。今までは退会した人の分、入会者があったのに新しい人があまり入って来なくなったのが主な原因のようです。



- ていると、そこに任せてしまっている。
- ⑤ 人に知られたくない思いがある。
  - ⑥ 最近は異変を感じたら早めに精神科を受診する人が多くなった。
  - ⑦ 病名がうつや適応障害・発達障害などと診断され、統合失調症と診断されることが少なくなったため、家族会に繋がらないことが多い。

など色々あると思います。

で減ってはいますが、自分たちの会として引き続き安心できる家族会を続けると共に、会の活性化・会員の増加にも取り組んで欲しいと思います。

る人の家族に働きかける。

- ③ 会のホームページを立ち上げて宣伝する。

など考えられると思いますが、それぞれの会で話し合っ

また、ここ数年で精神障害者をめぐる政策や福祉が変わっています。大部分は「入院から地域へ」との方針のもと、地域で当たり前のように生活出来るようになってきています。毎年新しい政策制度が少しずつ出てきています。新入会員の方はそれ

らの事を理解するだけでも時間がかかると思います。浜家連でも今年は5回の市民メンタルヘルス講座で勉強の機会がありますが、各単会でも勉強の機会を設け会員の不安を取り除いて欲しいと思います。

**浜家連の動き**



**<市民メンタルヘルス講座>**

本年度の普及啓発事業は、市民メンタルヘルス講座を5回開催することになりましたが、その内容がほぼ決まりました。

コロナウイルス感染はいまだ収まらず、開催にあたっては細心の注意を払って開催する必要がありますが、これら乗り越えて計画通りにできますよう、皆様の協力をお願いします。

**2021年度 市民メンタルヘルス講座**

	開催日	テーマ	講師	会場・時間
第1回	9月25日 (土)	・働きながら家族再生 仕事も家族もあきらめない	・(株)佐々木常夫マネージ メントリサーチ代表 佐々木 常夫 氏	瀬谷公会堂 13:30~16:00
第2回	10月 9日 (土)	・大人のひきこもり	・KHJ全国ひきこもり 家族会連合会理事 池上 正樹 氏	横浜市 健康福祉総合センター 13:30~16:00
第3回	10月23日 (土)	・当事者、家族、医 療者がお互いに 理解するために ～現状と未来 への展望～	・やきつべの径 診療所、精神科医 夏苺 郁子 氏	横浜市 健康福祉総合センター 13:30~16:00
第4回	11月28日 (日)	・大人の発達障害	・千代田クリニック院 長、iPEC 所長、精神 科医 吉田 友子 氏	横浜市 健康福祉総合センター 13:30~16:00
第5回	2022年 2月19日 (土)	・横浜市の親が健康 なうちの支援 シンポジウム形式 で行う	・司会 横山 秀昭 氏 (大地の会) シンポジストとして 横浜市で支援を行っ ている方々	横浜市 健康福祉総合センター 13:00~16:00

**<会派及び健康福祉局へ要望書出及び懇談会が行われています>**

昨年、要望書提出及び懇談会は健康福祉局及び日本共産党に対して行いましたが、他の会派は要望書の書面提出でした。今年度は参加者の人数を制限しながら、要望書提出及び懇談会を行っています。これらの様子については来月号でお知らせします。

- 会場 会 派     : 横浜市役所議会棟
- 健康福祉局: 横浜ラポール3階第1会議室

## 精神保健福祉施策要望書提出・懇談会及び交渉

提出及び懇談先	日程	時間	参加者
自民党・無所属の会	6月18日(金)	13:00～13:40	9名
公明党	6月14日(月)	14:00～14:45	9名
日本共産党	6月14日(月)	15:30～16:30	11名
立憲民主党・国民フォーラム	6月30日(水)	10:00～10:30	7名
横浜市健康福祉局	8月19日(木)	13:30～14:30	10名
日本共産党県議団	7月30日(金)	13:30～15:00	調整中

### 障神奈連ニュースに掲載されました。

障神奈連（障害児者の生活と権利を守る神奈川県連絡協議会）が発行する障神奈連ニュースに浜家連の方、お二人の記事が掲載されました。これらの記事を紹介します。



#### 不断の努力を怠らずに

#### たちばな会 大羽 更明

「以前は思い立って駅に行きさえすれば駅員さんに手伝ってもらえた。今は前日の夕方までに電話での予約が必要になり、言葉を聞き取ってもらいにくい私は人に頼むのに大きな苦痛があり、憤りを感じます。」という、足と耳が不自由な原告の発言が新聞に載りました。JR九州が大分市内8駅を無人化したために移動の自由を制限されて苦痛を受けたと、市内の肢体障害者が損害賠償を求めて訴訟をおこしたのです。また関連して、電車の乗降に介助が必要な障害者が階段しかない無人駅を利用するために介助を求めるのは「わがまま」という投書がSNSに載り、ブログには、「障害者団体がJRに代わって資格のある介助士を雇って対応する方がよい」という発言もありました。JRが路線運営を重視し合理化のために人を減らすのは当然だから、障害者も「自助が当然」、「わきましろ」です。

どこかで聞いたセリフです。私たちは横浜市役所でまったく同じことを聞かされました。横浜市の移動支援事業で、団体活動中の介助は移動支援の対象外だという説明に加えて、「特定の目的を持つ団体が主催する活動中の支援は公的負担のヘルパーさんに依存せずに団体が用意すべきである、肢体不自由者団体でも自分たちで。」という市健康福祉局障害福祉部の係長さんの話です。介助支援を当てにする障害者の活動は「遠慮しろ」です。

横浜市都筑区の障害者グループホームに反対する近隣の住民が「ホーム開設反対」「子どもたちの安全を守れ」などの幟旗を立てて、開設・運営を妨害してきました。かながわ精神医療人権センター（KP）の継続的な働きかけで旗は最近減り、「地域住民の安全を守れ」「運営反対」に変わったようですが。本音は、「精神障害者はここに住むな、出ていけ」で、脅しを込めた「排除」の旗です。

重度の障害がある天海さんが65歳で利用料がかかる介護保険申請を拒否したところ障害者福祉サービス利用をすべて打ち切られてしまいました。裁判でも全面敗訴で、ヘルパーさんの費用を全額自己負担しなければならない天海さんの生活は成り立たなくなりました。千葉県と千葉地裁から「死ね」と云われたわけです。

明らかに、いずれも障害者差別であり、人権侵害ですが、今の日本でこのような事例は挙げればきりがありません。

多様性の大切さが議論され、障害のある人も障害のない人もともに暮らしやすい共生社会を目指しているこの日本で、障害者差別解消法の改正が今月の国会で審議され、これまで努力義務だった「事業者による障害者への合理的配慮」が行政機関と同様に義務になるというこの時代に、なぜなのでしょう。まったく合点がいきません。ただ一つ言えるのは、障害者が少数派で、多数派の人にはなかなか理解してもらえない不便を抱えて生活しているということ、多数派の人々にとって便利でも少数派の人にとっては不便なことがあり、そのことを多数派の人にもわかってもらえるように説明する努力が必要だということではないでしょうか。それも、不断の努力が。

## 障全協中央交渉に参加して

## さかえ会 井汲悦子



4月15日（木）10時から12時まで、障全協の厚労省への中央交渉にオンラインで参加した。

障全協が設定した会場に厚労省の担当の方が見えて、前もって提出した「障害児者・患者の医療等に関する要望書」全11項目に答え、質疑応答をする形で進められた。

事務局の司会のもと、まず、新型コロナウイルス等の対策について回答があった。ワクチン接種については、優先的に接種する基礎疾患の中に重度精神障害者も入ると説明があったので、「重度について確認した」ところ、「精神保健手帳所持者で級は問わない。後は自己申告のあった人」との回答だった。また、「本人が意思決定の難しい人はワクチン接種の意思決定を誰がするのか。責任はどうなるのか」「コロナに感染して入院を拒否されて施設内で介護者がみている現実があるがこれでいいのか」「PCR検査は通所、ショートステイの人も含めて重症化リスクの高い人たちとその周りにいる人達に無償で何度でも受けられるようにしてほしい」等の意見には、「自治体の判断で」とか「対策を講じよう

とと思っている」「患者の状況によって行っている」などはっきりしない回答だった。

次に医療における利用者負担について回答があった。「自治体の重度心身障害者医療費助成制度を国の制度として障害者の医療の無料化を進め、医療費の地域格差をなくしてほしい」への回答は「自立支援医療は国の医療費助成制度、自治体の重度心身障害者医療費助成は足りないところを補っている福祉医療であり、厳しい財政状況なので難しい」との回答だった。

続いて、「精神科病床の配置基準を一般病床と同水準に引き上げほしい」に対して「精神科特例の基準は最低限の基準。病院が実態に合わせてプラスするよう伝えている。精神科特例については、課題と認識している」との回答だった。

初めてのオンライン交渉で音声途中で途切れることもあったが、話し手に集中することができて聞き取りやすかった。全国から参加者がおり、それぞれの地域の実態も聞くことができた。特に長野の方は精神障害の関係者で全くの同意見で心強かった。

【編集後記】東京オリンピックも開催まで残りわずかとなりました。ここへ来ていろいろと物議をかもしているようです。思えば招致がきまった時は大いに盛り上がりましたが、その後はポスターの盗作問題、メイン会場となる国立競技場の設計者選択のゴタゴタ、競技会場の変更・・・、そして最後には、致命的ともいえる世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルス感染が発生し、これが大打撃となった感があります。前回の東京オリンピックのような「行け行けドンドン」のような雰囲気はどこにもなかったような気がします。開催するのであれば、これまでの雰囲気を払拭するような「やって良かったね！」と言えるオリンピックになってほしいと願っています。

ところで皆さんは今年7月の祝日をご存知ですか、東京オリンピックの開会式に合わせて、7月22日（木）が海の日、7月23日（金）がスポーツの日となって祝日となります。7月19日（月）を海の日と記載しているカレンダーもあるようで、お気をつけください。

（事務局 中居）